堀江中学校　校長室だより　　令和8年度 No.26

さくら

令和8年11月4日（水）

ＡＩについて その1



昨今のAIの進歩には目を見張るものがあります。およそ半世紀前、私が大学生の頃には、すでに「人工知能（AI）」の概念があり、大学の講義でも話を聞いたことがありました。しかし、当時のAIは、現在のものとは比較にならないほど低性能でした。

時を隔てた今、高性能となったAIにより、さまざまなことが可能になっているのは皆さんも知ってのとおりです。しかも日常生活の中で、スマホやPCを使って誰もが気軽にAIを使うことのできる時代になりました。

例えば文章作成においては、AIに「このような文章を書いて」と指示すれば、短時間で必要な文章が出力されます。ビジネスシーンでは、業務を効率化する強い味方となっています。

それでは、大切な人へお手紙を書くときにAIを使うのはどうでしょうか。私は違和感を覚えます。例えばそれが感謝の気持ちを伝える手紙なら、自分の言葉で伝えてこそ、相手の心に届くのではないでしょうか。

また、公立高校受検時の自己申告書を書くときはどうでしょう。AIを使えば、良い文章に仕上げてくれるでしょう。しかし、そこにあなた自身の本当の思いや熱意は込められているでしょうか。

では、AIは一切使わない方がよいのでしょうか。決してそういうことを言っているのではありません。大切なことは、必要に応じて上手にAIを活用するということです。

まずは自分の頭で考え、言葉のチョイスや表現に悩みながら、自力で文章を紡ぎ出す。このように苦労して書いた文章にこそ、皆さんの思いが反映され、命が吹き込まれるのです。その上で、完成した文章の誤字脱字チェックや表現の添削としてAIを活用するのは「あり」だと思います。

AI万能・AI頼りとは考えず、これからの時代に求められる、賢いAIとの付き合い方を私たちは考えなければなりません。

※イラストは、この文章をもとにAIで作成

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。